

日本語支援の現場の声から考える —辰巳丘高校の支援の事例から—

石川県立金沢辰巳丘高校 非常勤講師 奥村郁子 中尾ちひろ

金沢大学人間社会学域国際学類 別所瑠璃

金沢大学人間社会環境研究科国際学専攻 芳川舞

目次

1. 支援の概要
2. 生徒たちについて(別所)
3. 支援の現在と今後の課題(奥村)
4. 辰巳丘高校におけるDLAの活用と日本語支援の課題(中尾)
5. 最後に

1. 支援の概要

石川県立金沢辰巳丘高等学校



〈各学年〉

普通コース 2クラス、芸術コース(音楽専攻/芸術専攻)1クラス

〈スクール・ミッション〉

- ・協働的な学びや個別最適な学びを通して、学ぶ意欲を高め、課題を発見し、考え、解決できる力を育成する。
- ・国際性・芸術性に富んだ校風の中、探究活動や地域と連携した取組を通して、豊かな人間性や社会性を育成する。
- ・芸術コースを有する高校として、個に応じた実技や理論の指導を通して感性や創造力、表現力を高め、各分野で活躍・貢献する人材を育成する。

外国人生徒等支援員配置事業

〈制度の趣旨・目的〉

令和6年度高校入試において「外国人生徒等に係る特別入学」が実施されたことを踏まえ、言語支援が必要な生徒に対して、日本語指導及び学校生活支援を行う。

〈事業内容〉

「外国人生徒等に係る特別入学」を利用して入学した生徒が在籍する県立高等学校において、次の支援を任用する。

1. 日本語指導支援員: 授業内容を理解できる日本語能力を身に付けさせるため、日本語指導を行う。
2. 学校生活支援員: 通常の学校生活を支障なく送れるようにするため、母語または英語での言語支援等を行う。

石川県立高等学校外国人生徒等に係る特別入学

対象：出願期間最終日時点で入国後3年未満の者

※外国人生徒等に係る特別入学の募集人数は、募集定員とは別に若干名

検査科目：面接及び作文

入学者の選抜

- (1)外国人生徒等に係る特別入学志願者については、学力検査を行わない。
- (2)高等学校長は、中学校長から提出された調査書、面接及び作文の結果を総合して、合格内定者を決定する。

石川県教育委員会(2024)「令和7年度 石川県公立高等学校入学者募集要綱」p.26-27より

石川県立高等学校外国人生徒等に係る特別入学

全日制課程

加賀高等学校、寺井高等学校、松任高等学校、**金沢辰巳丘高等学校普通科(普通コース)**、宝達高等学校、鹿西高等学校及び穴水高等学校

定時制課程

加賀聖城高等学校、小松北高等学校、金沢中央高等学校、羽松高等学校、七尾城北高等学校及び輪島高等学校

支援体制の変化

	2022,2023年度	2024年度	2025年度
人員	ボランティア2名 日本語指導支援員2名	ボランティア1名 日本語指導支援員3名 学校生活支援員 2名	日本語指導支援員4名 学校生活支援員 1名
時間	週2回各1時間	週2,3回各1時間	週2,3回各1時間

〈支援の目的〉

外国から日本に来たなどの理由で、日本語が十分に身についておらず学習等で支障のある生徒に対して、日本語指導や学習支援を行うことで生活や学習における困難を解消し、より充実した生活を送ることができる。

〈現在の支援の対象〉

高校1年生3名、高校2年生4名、高校3年生1名

〈ルーツのある国〉

台湾、中国、フィリピン、ミャンマー

〈支援の内容：日本語学習〉

- ・テキスト「中学生のにほんご 社会生活」を使った、日本語学習
→教科学習への「橋渡し」のためのテキストであり、教科を学ぶ際に必要な日本語を学ぶことができる。
 - ・「TRY！日本語能力試験 N1～5 文法から伸ばす日本語」を使った、生徒個人のレベルに合わせたJLPTの対策
- ＊日本語学習の支援を行っている地域のボランティア団体と連携（テキストの進捗状況の共有等）を取り、学校外でも日本語学習を進めている。

TRY! トライ!

日本語能力試験 N3

Japanese Language Proficiency Test

文法から伸ばす日本語

ABK ◆ 公益財団法人 アジア学生文化協会 ◆

【音声ダウンロード版】

中国語版
中文版

まだまだ
いけるぞ!!
がんばろう

文法の“使い方”がよくわかる
聞く・読む練習でしっかり身につく!

中国語訳つき 本書也附有中文解釋

★「語いリスト(訳つき)」はウェブサイトより無料ダウンロード!



中学生のほんご 社会生活編

外国につながるのある
生徒のための日本語



庵功雄 監修 志村ゆかり 編著

志賀玲子・渋谷実希・武一美・永田晶子
樋口万喜子・宮部真由美・頼田敦子 著



Web
にあります

●言葉リスト
(五十音順 英語・中国語・スペイン語訳付き)

スリーエーネットワーク

〈支援の内容:教科学習〉

教科学習は、主に定期試験前に生徒の希望に合わせて支援する。支援する教科は国語・数学・英語・理科・社会と多岐に渡る。

→国語科とは特に連携ができており、授業で使った学習プリントや提出課題の一覧を共有してもらい、支援に取り組んでいる。

→生徒自身が把握できていない授業内で出された課題のカバー、ロイロノートやGoogleClassroomなどのオンライン上の教材・課題を支援員側が把握することが可能になる。



〈支援内容：学校生活関係〉

- ・学校生活に関するアンケート、進路希望調査の説明や記入の支援
- ・進路ガイダンス(在留資格、奨学金等)
- ・保護者宛の配布物の翻訳
- ・地域の日本語教室の紹介
- ・(5月・12月)1年生3名に対するDLAアセスメントの実施

＋長期休業中の学習支援(特別入試利用の生徒のみ)

Ex.課題、読書感想文、オープンキャンパスへの同行など

かいこく せいと
外国につながる生徒のための
しんろあんない
進路案内

The Career Guidebook for
Culturally Linguistically Diverse High School Students
in Japan



目次	CONTENTS
0. まず考えてみよう！自分の好きなこと、自分の将来！	0. Let's think about what you would like to do in the future!
1. 進路ってなに？	1. What is a career path?
2. 進学の場合	2. Advancing to universities and vocational schools
3. 就職の場合	3. Getting a job
4. 進学・就職と在留資格	4. Status of residence for higher education and employment
5. JLPTと進路	5. Japanese Language Proficiency Test (JLPT) for career opportunities



いっぽんしゃだんほくりく にほんご ほくりく
一般社団法人 日本語まなびサポート北陸
General Incorporated Association Nihongo Learning Support Hokuriku
<https://nihongomanasapo.wixsite.com/manasapo>

←一般社団法人 日本語まなびサポート北陸(2024)
「外国につながる生徒のための進路案内」



学校での様子、日本語指導の進捗状況、
進路選択の状況...

辰巳丘高校

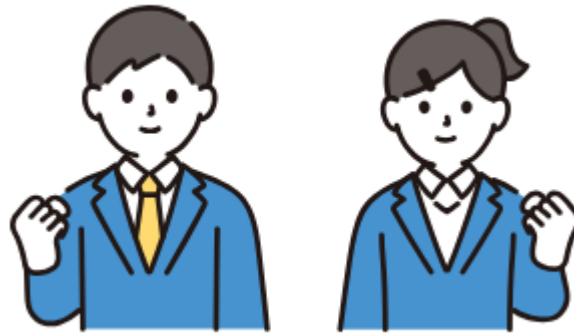
- ・授業
- ・進路に関する情報

必要に応じた
支援員を通しての情報共有



金沢子どもスタディサポート
白山国際交流サロン
KIEFこども広場
IFIE石川県国際交流協会

- ・教科学習、課題のサポート
- ・進路に関する情報



支援の対象となる生徒

2. 生徒たちについて

学校生活支援員 別所瑠璃

ハードルがあると感じる点

①生活言語と学習言語の違い

生活言語: 日常生活で使用されることば

学習言語: 学習する際に使用されることば

文部科学省(2021)「日本語指導が必要な児童生徒等の教育支援基盤整備事業(動画コンテンツ開発)研修用動画コンテンツ2 外国人児童生徒等教育の考え方」より

②国語について

①生活言語と学習言語の違い

学習言語は生活言語に比べ、習得に時間がかかる

⇒日常会話が何不自由なくできているからといって、学習内容がスムーズに理解できるとは限らない

⇒分からない状態が続くと、学習へのモチベーションが下がり、学習しても結果が出ない不安やあきらめといったマイナスな感情へつながる

⇒授業での学びを増やすため、「日本語で理解する」をサポートすることの重要性

②国語について

- ・国語も他の科目と同じように、学習言語が使用されているため、やさしい日本語や他の言語などで改めて解説する必要がある

→それぞれの作品が持つ独特な感性を、簡単に言い換えて説明することの難しさ

→『羅生門』の話

②国語について

→『羅生門』の話

高校一年生の国語で『羅生門』が勉強されていたとき、当時の支援員の方が英語版の『羅生門』を使用するなど、様々な工夫をしたものの、**作中で表現されている独特な感性が伝えられなかった。**

②国語について

「下人は、頸をちぢめながら山吹の汗衫に重ねた、紺の襖の肩を高くして、門の周りを見まわした」

芥川竜之介(2002)『羅生門 鼻 芋粥 偷盗』(p.9)より

「Ducking his neck, he looked around the gate, and drew up the shoulders of the blue kimono which he wore over his thin underwear.」

Akutagawa Ryunosuke(著)Kojima Takasi(訳)(2018)『Rashomon and Other Stories 』(p.44)より

→写実的な表現がシンプルに訳されているため、大まかな内容しか掴むことができない。

今後必要だと考えられる対応

①生活言語と学習言語の違い

→学習言語の習得の難しさを支援員⇔先生間で共有し、授業内で生徒が学習内容を理解し、話し合い等の活動に積極的に参加できるような環境づくりを

②国語について

→ことばでの説明だけではなく、写真や動画などの視覚教材を活用した授業・支援を

今後必要だと考えられる対応

②国語について

→ことばでの説明だけではなく、写真や動画などの視覚教材を使用し、理解を促す。

(例)『羅生門』の支援

→難しい言葉(「汗衫」など)の意味の結び付けには写真やイラストを使用し、文章で説明されても理解しにくい描写はアニメーションなどの映像で見せ、写実的な描写を視覚的に理解してもらう。



2. 支援の現在と今後の課題

日本語指導支援員 奥村郁子

外国人児童生徒とは？

「日本語を母語としない児童生徒」

「外国につながる子ども」「外国ルーツの子ども」

「CLD児(Culturally and Linguistically Diverse)」

- ・両親が外国人の子ども
- ・国際結婚夫婦の子ども 日本生まれ日本育ち
 外国生まれ外国育ち → 来日
- ・再婚で親が来日し、国の子どもを引き取るケース
- ・その他、さまざまな状況の子どもがいる

外国人児童生徒への指導の課題 ①

- 散在地域の高校では、教員が外国人生徒に接する機会が少ないため、背景を含めた子どもへの理解が十分ではない。
- 指導上の問題があっても、担任の教員などが何とか対応していることで一応「済んで」いるため、それらの問題について教員間の共通理解が得られにくく、学校全体の取り組みとなりにくい。

外国人児童生徒への指導の課題 ②

➤ 日本語に起因する学習の困難があっても、個人の努力不足と見なされがち。

例 課題を提出しない → 実は課題が何かわからない
テストが白紙 → 実は問題文の意味がわからない
「分からなくても解答欄を埋める」をしない

➤ 生活言語の上達に伴って生徒の「困り感」が下がると、日本語学習に対する学習意欲を維持することが難しい。

外国人生徒等に関わる入学者選抜 (入国・帰国3年以内)

- 学力検査(一般入学)における「特別措置」
 - 漢字にひらがなのルビを振った学力検査問題で受検することができる
- 「外国人生徒等に係る特別入学」(R6～)
 - 検査科目……面接および作文(学力検査なし)

「外国人生徒等に係る特別入学」制度で受検し 入学する生徒の特性

- 原則として入国または帰国後3年以内の外国にルーツがある子ども
- 文化的背景が異なる場合もある
- 日本語力が極端に低く授業内容が理解できない
- 語彙力不足が顕著である(とくに学習言語)
- 初級レベルの日本語指導が必要

入学時点で大きなハンデキャップを負っている
上級学年に進級後も継続して支援を必要とする場合が多い

外国人生徒を受け入れるに当たって

- ① 学校全体で、外国人生徒の特性についての認識を共有すること
(校内研修・研修動画の視聴など)
- ② 学校が主体となって、外国人生徒の生活指導・学習指導・進路指導のあり方について検討すること
- ③ そのために、外国人生徒の指導を主として担当する部署が校内に設けられること
- ④ 学校と支援員が連携し協力して、円滑な支援を行う体制がとられること

入学後の支援①（県教委/学校から）

- 日本語支援員・生活支援員の配置（県教委）
- 特別入試の生徒にポケット貸与（県教委）
- 入学手続き関係書類等の翻訳（学校）
- 該当生徒に対する学校生活についての説明（学校）
- 日本語の教材等、支援に必要な図書を購入（学校）
- 定期テストの問題にひらがなのルビを振る（学校）
- ルビを振った教材を提供する（国語科のみ）

入学後の支援②（支援員から）

- 予備入学・物品購入時の支援員の引率
- 日本語のレベルチェック(漢字テスト)
- 放課後の学習支援(週2～3回)
 - 日本語学習 教科学習 提出課題支援
 - 定期考査学習支援
- 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA
- 夏季休業中の日本語学習
- JLPT(日本語能力試験)対策・出願支援
- 外国人生徒に対する進路ガイダンス

学校と支援員の連携

- 管理職(教頭先生)が連携・連絡の窓口
- 行事予定・シラバス・教材・提出課題の共有
- 担任との連絡→「支援員先生連絡票」
- 必要に応じて、先生(管理職・担任・教科)との
情報交換の場を設ける
- アンケート・進路希望調査その他の説明や記入支援
(文書の翻訳・入り込み支援)
- 支援員による授業見学

課題

- ① 外国人生徒に対応する部署の設置
- ② 日本語支援員と生活支援員の役割の違い？
- ③ 日本語学習と教科学習のバランス
- ④ 日本語学習に対する生徒のモチベーション
(日本語学習は成績に直結しない)
- ⑤ 外国人生徒を受け入れている他校・他校種との情報交換

2. 辰巳丘高校におけるDLAの活用と 日本語支援の課題 中尾ちひろ

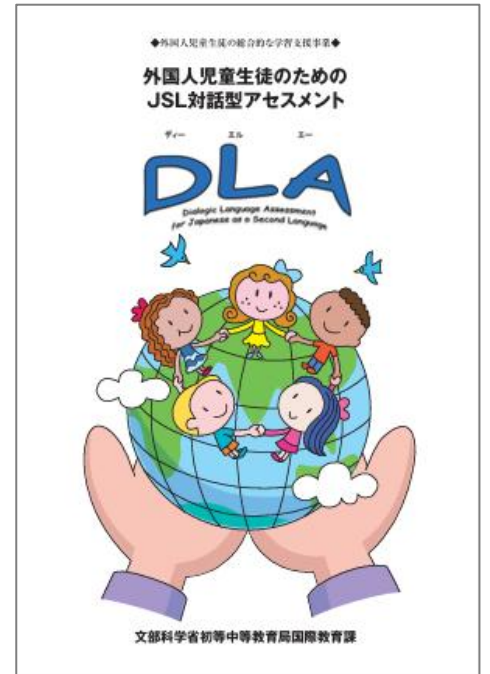
外国人児童生徒のための JSL対話型アセスメントDLA(H26発行版)の概要

●<はじめの一步><話す><読む><書く><聞く>の各言語活動の中で、実施者と子どもとの「対話」を通して子どもの言語能力を把握する

→思考・判断・表現を支える包括的なことばの力

→日本語固有の知識・技能・様態「日本語の力」

●子どもの日本語の力の段階を「JSL評価参照枠(全体)」に沿って6段階のステージに分け、日本語の学習支援と教科学習支援の在り方を検討する



外国人児童生徒のための JSL対話型アセスメントDLAが可能にすること

- 子どもが**包括的なことばの力と日本語の力のどちらに困難を抱えているのか**がわかる
- 定期的にDLAを実施することで、**子どもの成長を確認**できる
- 「JSL評価参照枠(全体)」の6段階のステージに基づいて、関係者(学校教員、日本語支援員、保護者、進学先関係者等)と**情報を共有**できる

日本語教室に通室する
生徒のステージ:1～5

滞日年数の浅い生徒
(3年未満):1～2

ステージ	学齢期の子どもとの在籍学級参加との関係	支援の 段階
6	教科内容と関連したトピックについて理解し、 積極的に授業に参加できる	支援付き 自律学習 段階
5	教科内容と関連したトピックについて理解し、 授業にある程度の支援を得て参加できる	
4	日常的なトピックについて理解し、 学級活動にある程度参加できる	個別学習 支援段階
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、 学級活動にも部分的にある程度参加できる	
2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	初期支援 段階
1	学校生活に必要な日本語の習得がはじまる	

「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」より

金沢辰巳丘高校におけるDLA活用状況

- 2024年度入学の生徒からDLAを実施(年2回)
- 日本語支援に関わる支援員と学校教員で評価結果を共有
→成績に関わる提出課題の在り方などを相談、検討
- 日本語支援の到達目標の決定、日本語テキストの選定

日本語教室に通室する生徒の 日本語学習内容(一部)

みなさんは、よくコンビニに行きますか。コンビニで、何を買いますか。

コンビニの人気商品といえば、「おにぎり」です。(中略)

おにぎりは、1000年以上前から日本にあったそうです。昔の人もおにぎりを食べていたのですね。そして江戸時代(1603年～1868年)には、旅に出たり、農作業に行ったりするとき、おにぎりのお弁当を持って出かける人が多くなりました。のりを巻いて食べる習慣も、この頃できたそうです。(以下略)・・・

高校の現代の国語(1年生)で扱われる文章

「鹿おどし」が動いているのを見ると、その愛嬌の中に、なんとなく人生のけだるさのようなものを感じることがある。(中略)・・・

見ていると、単純な、ゆるやかなリズムが、無限にいつまでも繰り返される。緊張が高まり、それが一気にほどけ、しかし何事も起こらない徒労がまた一から始められる。(以下略)・・・

山崎正和「水の東西」株式会社大修館書店(2022)『新編 現代の国語』p.93より一部引用

課題

●DLAの結果、ステージ1～2の初期支援段階であっても、**授業中に支援員がサポートすることができない**

●授業のサポートとして「**ポケットーク**」の貸与も行われているが、生徒は「**使い時**」が分からず、**活用が難しいケース**もある

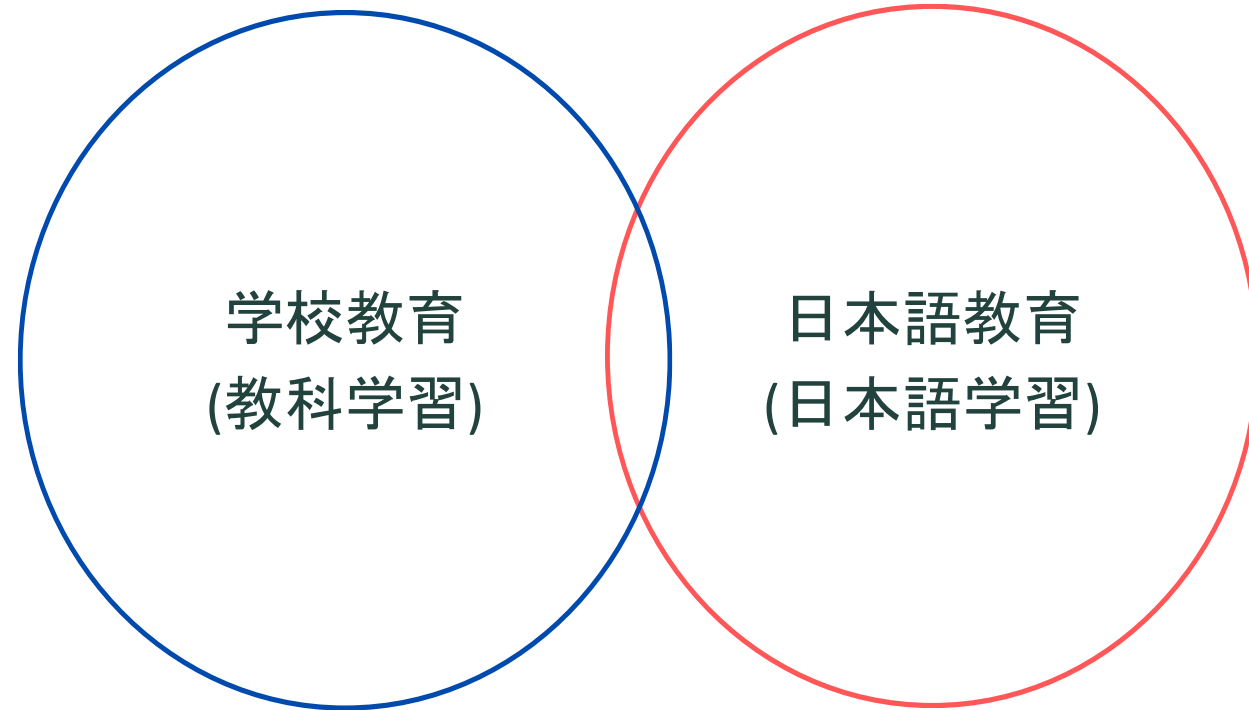
教科学習に参加するために

- 日本語教室への通室(課外)
- 取り出し、入り込み授業の導入
- 「特別の教育課程」の導入

3. 最後に

学校教育と日本語教育の連携

- ・授業内で学習内容に対する十分な理解を得るためには、学校教育（教科学習）と日本語教育（日本語学習）の協働が必要不可欠。
- ・本研究会のような機会や研修を通して、教員、支援員それぞれの外国人児童生徒等の教育・支援について議論する場を設けることも重要。



学校×学校の「横のつながり」

北陸圏内でも「支援に取り組んでいる」「特別の教育課程を取り入れている」という事例も徐々に増えている。

→支援員・教員の知識のブラッシュアップ、支援内容の拡充のためにそれぞれの学校との情報共有を

→多様な背景を持つ生徒が増加する中で、北陸地域独自の「学校教育×日本語教育」の連携の在り方を模索するきっかけに

参考資料,Webページ

Ryunosuke(著)Kojima Takasi(訳)(2018)『Rashomon and Other Stories 』(p.p.41-50)チャールズ・イー・タトル出版

芥川竜之介(2002)『羅生門 鼻 芋粥 偷盗』(p.p.5-18)岩波書店

庵功雄 監修(2019)「中学生のにはongo 社会生活編—外国につながりのある生徒のための日本語—」スリーエーネットワーク

株式会社大修館書店(2022)『新編 現代の国語』

石川県教育委員会(2024)「令和7年度石川県公立高等学校入学者募集要項」

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/gakkou/senbatu/documents/r7youkou.pdf> (最終アクセス:2025年7月6日)

一般社団法人日本語まなびサポート北陸ホームページ<https://nihongomanasapo.wixsite.com/manasapo> (最終アクセス:2025年7月6日)

文部科学省(2021)「日本語指導が必要な児童生徒等の教育支援基盤整備事業(動画コンテンツ開発)研修用動画コンテンツ2 外国人児童生徒等教育の考え方」https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003_00004.htm(最終アクセス:2025年6月28日)

文部科学省(2025)「外国人児童生徒等のことばの力のアセスメント(旧「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」のページ)」https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm (最終アクセス:2025年6月28日)

NHK for school 10 min. ボックス 現代文「羅生門(芥川龍之介)」

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150041_00000(最終アクセス:2025年7月10日)